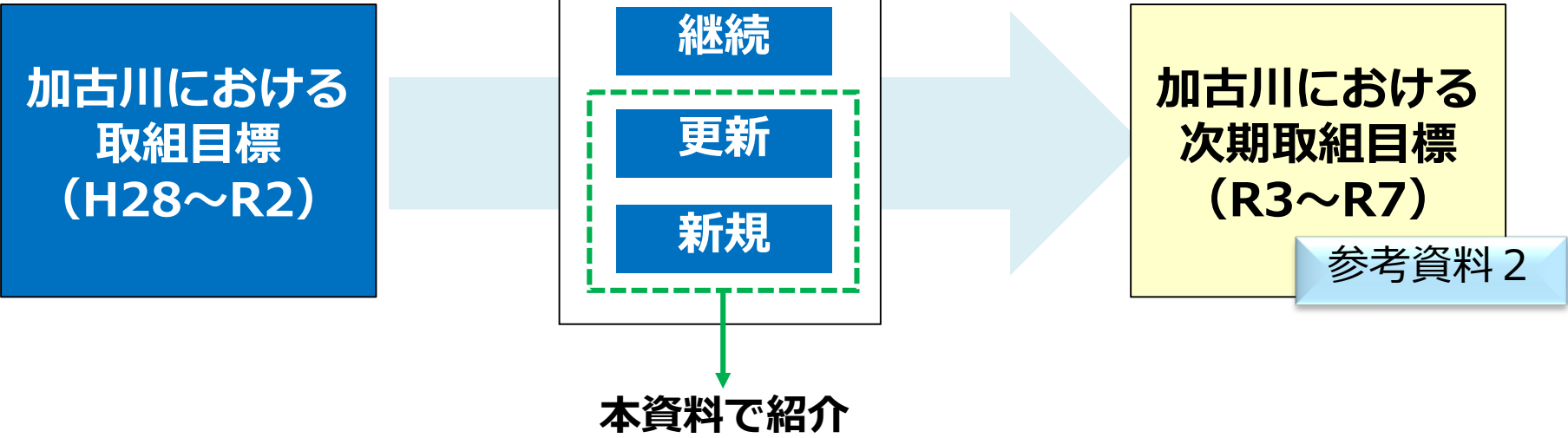


# 次期取組目標（R3～R7）について

# 取組目標の更新について

- 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく加古川の取組目標の策定から、今年度末で5年経過した。
- **当初掲げていた取組目標は概ね実施**できているが、水防災に対する意識の継承・再構築および大規模水害に対する備えの充実を図るために、**今後も減災に係る取組を継続すべき**である。
- そこで、現取組項目に対して、継続・更新・新規項目を整理し、**取組目標の更新案を作成**した。

## 取組目標の更新



# 取組目標の更新案

## 1) ハード対策

赤字…新たに追加した項目

### ■ 洪水を河川内で安全に流す対策

- ・堤防整備
- ・河道掘削
- ・質的対策（堤防の浸透、侵食、洗掘対策）

### ■ 水防活動に資する基盤等の整備

- ・水防拠点となる施設の整備検討

### ■ 流域における対策

- ・集水域や氾濫域での対策

## 2) ソフト対策

### ① 意識改革、防災意識の継承・再構築、情報伝達に関する取り組み

### ■ 想定される浸水リスクの周知

- ・想定最大規模洪水を対象とした洪水浸水想定区域図、氾濫シミュレーションの周知
- ・地域住民及び学校等への水災害教育の実施
- ・住民の危機意識向上のための施策等を検討改善
- ・想定最大規模洪水を対象とした浸水CGの作成・活用
- ・想定最大規模洪水を加味した洪水ハザードマップの更新・周知
- ・水害リスク空白域の解消

### ■ 避難勧告等の発令

- ・タイムライン（案）の検証及び改善に向けた検討
- ・避難判断水位、氾濫危険水位等の検証及び見直し

### ■ 避難場所、避難経路

- ・広域避難も含めた、避難場所及び避難経路の更新
- ・地域防災計画の更新
- ・民間施設等を活用した緊急的な避難先の検討

### ■ 住民等への情報伝達の体制や方法

- ・協議会参加機関のホームページ等を活用した、浸水想定区域や避難行動に係る情報等の提供
- ・発表の対象区域や避難の切迫性等が住民に伝わる洪水予報文、伝達手法の検討・周知
- ・避難情報提供ツールの整備及び住民への周知
- ・リアルタイム洪水情報の活用及び住民への周知
- ・スマートフォン等を活用したプッシュ型情報の発信・普及
- ・外国語に対応した情報提供の実施

### ■ 避難誘導體制

- ・「自主防災組織で避難誘導にあたる人材」・「自主避難できる住民」の育成（防災リーダー等）
- ・避難行動要支援者に対する、避難方法等の個別計画の作成
- ・避難行動要支援者に係る地域の共助力の向上
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進

### ■ 避難に関する啓発活動

- ・水害を想定した避難訓練、避難所運営訓練の実施
- ・想定最大規模洪水又は計画規模洪水を対象としたマイ防災マップ等の更新、作成
- ・関係機関と協力・連携した普及啓発活動（出前講座等）の実施

# 取組目標の更新案

## 2) ソフト対策

### ② 氾濫時に人命と財産を守る水防活動の強化に関する取り組み

#### ■ 水防体制

- ・ 若年層の消防団加入促進を図る普及啓発活動を実施
- ・ 重要水防箇所を姫路河川国道事務所ホームページ等で公表
- ・ 関係者による重要水防箇所等の共同点検を実施
- ・ 溜め池の決壊や内水氾濫、想定最大規模洪水を踏まえた避難体制の整備

#### ■ 河川水位等に係る情報提供

- ・ 洪水時のカメラ・水位計による堤防監視、施設監視の強化
- ・ 河川管理者による水位予測情報の提供

#### ■ 水防資機材の整備状況

- ・ 水防倉庫等の配置計画を再検討
- ・ 水防資機材の備蓄状況について、自治体に情報提供を実施

### ③ 一刻も早く日常生活を回復するための取り組み

#### ■ 氾濫水の排水

- ・ 氾濫水を迅速かつ的確に排水するための排水計画の見直し
- ・ 排水計画に基づく排水訓練、及び関係機関との合同訓練の実施

- 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、河川管理者等の取組だけではなく、流域の関係者が主体的に治水に取り組む「流域治水」が重要である。
- 加古川でも雨水貯留施設を整備する等、**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例を減災対策協議会で他機関と共有**する。

### ため池の治水活用 (事前放流設備の整備等)



洪水吐切欠

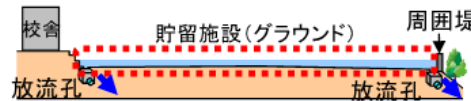
### 校庭における雨水貯留



学校や公園、駐車場等を活用し、雨水を一時的に貯留または地下に浸透させる。

イメージ図

大雨時に、校庭で雨を一時的に貯留



### 公共・民間開発による 雨水浸透施設の整備



市立図書館(透水性歩道)

### 田んぼダム



せき板設置

堰板配布・設置により雨水流出の抑制を図り、雨水流出による被害低減に取り組む。

### 各戸による雨水貯留施設の設置

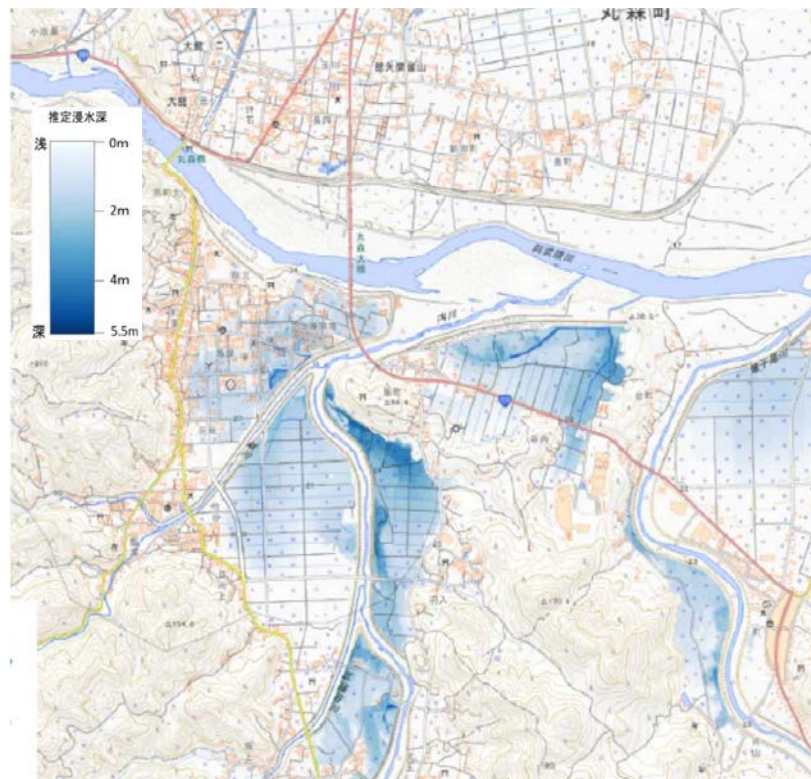


(例)  
雨水貯留施設の設置に対し、設置費用の一部を助成する。

【11】水害リスク空白地域の解消

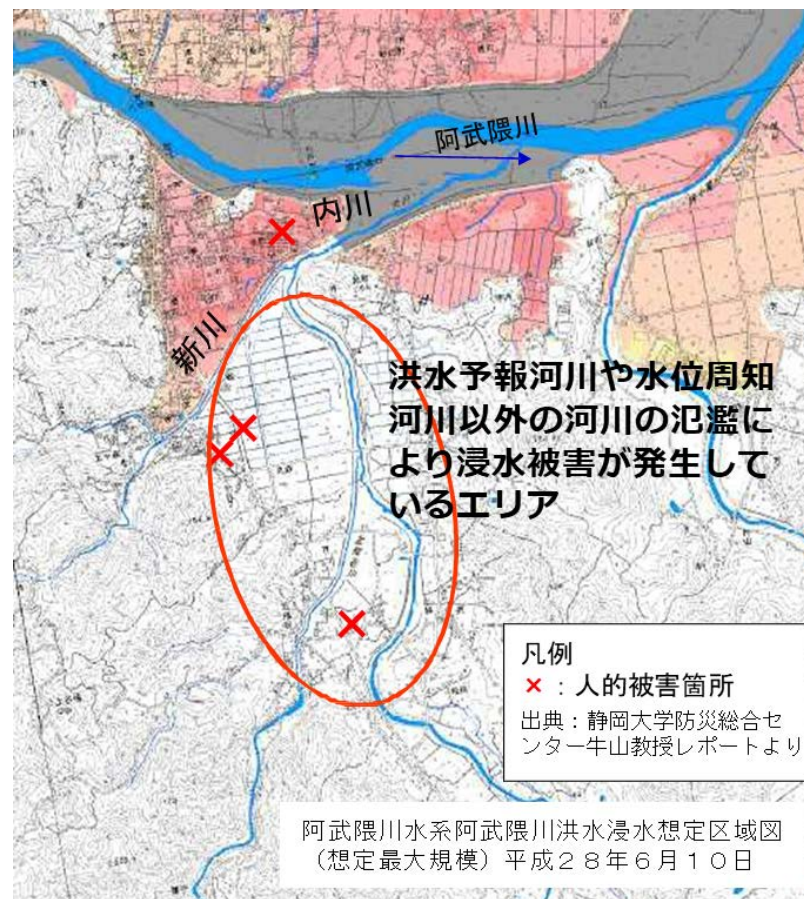
- **洪水予報河川や水位周知河川以外の河川における浸水想定区域を指定**する。
- 各市は浸水想定区域をハザードマップに反映し、水害リスク情報の空白地域を解消する。

● 令和元年台風第19号浸水推定段彩図



- ✓ 10月14日18時時点で国土地理院で収集した情報と標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さごとに色別に表現した地図
- ✓ 実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分がある

● 阿武隈川水系阿武隈川洪水浸水想定区域図



【16】民間施設等を活用した緊急的な避難先の検討

- 想定最大規模洪水による浸水を想定したとき、公共施設の指定避難所だけでは、十分な緊急避難場所を確保することが困難な場合がある。
- **民間事業者等と災害時の応援協定を締結して、民間施設等を指定緊急避難場所として活用**することを検討する。

● 民間施設等の指定緊急避難場所利用



【指定緊急避難場所の指定事例】

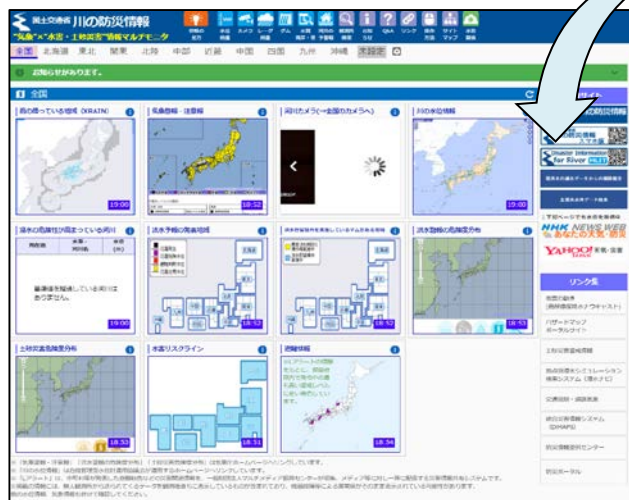
- ・ ホテル、マンション、オフィスビルの廊下・踊場
  - ・ 商業施設等の自立式立体駐車場
  - ・ スーパー、ホームセンター等の駐車場
- 等

「指定緊急避難場所の指定に関する手引き」参照

【20】リアルタイム洪水情報の活用及び住民への周知

- 「川の防災情報（国土交通省提供サイト）」等、国や県が有している河川水位やCCTVカメラ等の**リアルタイム洪水情報の確認方法を住民へ周知**する。

●川の防災情報（国土交通省）



リアルタイム情報

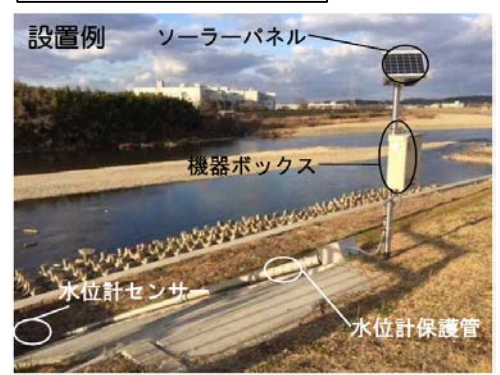


●気象庁ホームページ



洪水時は危険度分布を確認できる

危機管理型水位計



加古川での設置のようす



【26】要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進

- 地域防災計画に定められた**要配慮者利用施設**について、**避難確保計画の作成を促進**する。
- 施設管理者等から市町村への訓練結果の報告が水防法改正により義務化されることを踏まえて、**避難訓練の実施を徹底**する。

● 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成を促進

● 避難訓練を実施し、避難確保計画の実効性を確認



ワークショップのようす

避難確保計画

施設名：○○○

【様式】

15条の3第1項および、本府災害防止法第15条の第2項に基づき、利用者の欠陥や台帳等の内容が不適切な記載の確保を

図じて免責し、修正をしたときは、本府災害防止法第15条の3第1項第5項の記載に基づき、速やかに、当該計画を申請対象

施設又は利用する全ての者に適用するものとする。

人			氏名	
役職	所属	氏名	氏名	
施設長				
副施設長				
事務				
その他				

利用種別	利用人数	避難確保
常時	約 10 名	約 2 名
その他	約 30 名	約 5 名

避難訓練のようす

8

## 【8】住民の危機意識向上のための施策等を検討改善

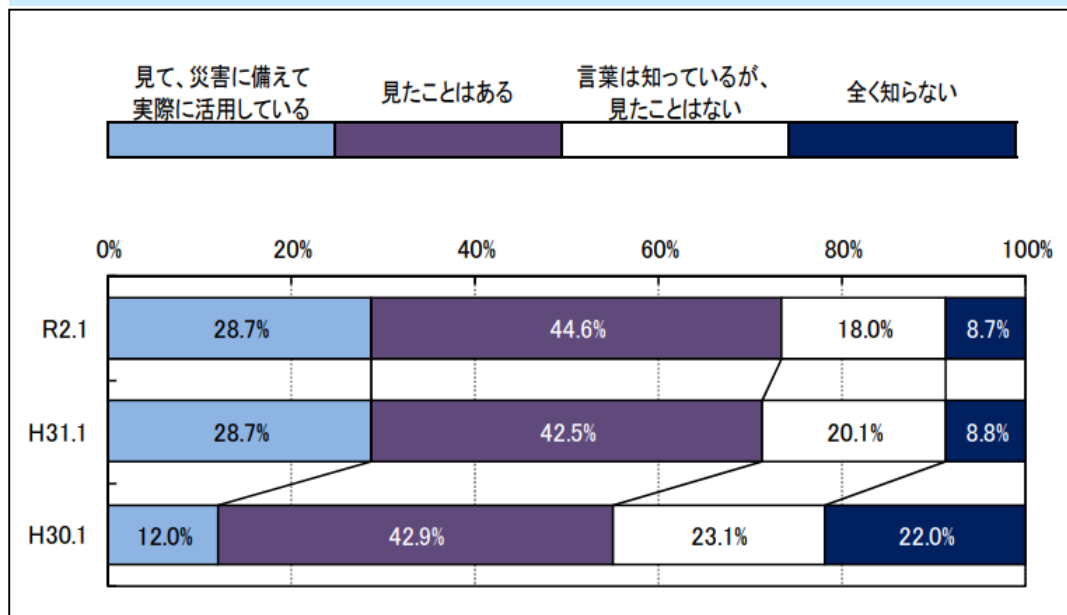
- 各機関で住民の意識変化を確認するアンケート等を実施した。
- アンケート等の結果を踏まえて、住民の危機意識向上のための施策等を必要に応じて改善する。

【現行取組項目】 意識変化を確認するための手法（住民アンケート等）の検討・実施

【次期取組項目】 住民の危機意識向上のための施策等を検討改善

(例) 県民モニターアンケート  
「防災に対する意識と取り組み（令和元年度）」

## 「兵庫県CGハザードマップ」の認知度



兵庫県CGハザードマップの周知に関する施策等を検討改善

【12】タイムライン(案)の検証及び改善に向けた検討

- 行政主体のタイムラインは作成済みである。
- 今後は、**避難勧告及び避難指示が一本化**されることを踏まえて、**タイムラインの改善**を行う。
- また、**気象庁・鉄道事業者**との情報伝達に関する項目を追加する等の改良を行う。

【現行取組項目】タイムライン(案)の検証及び改善に向けた検討  
 【次期取組項目】※項目名に変更なし

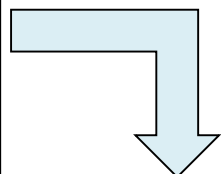
現行のタイムライン

国・市町の対応を詳細に記載

チェック欄

河川 水位	気象庁	国・市町の対応を詳細に記載	チェック欄			備考
			実施状況	チェック	チェック結果	
-1.5 ■ 洪水危険箇所の水位が近接 水位に到達した場合は 【■ 水防課(水防3.5m)】	洪水予報(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(気象庁)からの情報	○の対応			
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
-1.5 ■ 洪水危険箇所の水位が近接 水位に到達した場合は 【■ 水防課(水防3.5m)】	洪水予報(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(気象庁)からの情報	○の対応			
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
-0.5 ■ 洪水危険箇所の水位が近接 水位に到達した場合は 【■ 水防課(水防3.5m)】	洪水予報(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(気象庁)からの情報	○の対応			
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
0 ■ 堤防の決壊等による浸水が 発生した場合	洪水予報(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(気象庁)からの情報	○の対応			
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		
		気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	気象庁(災害危険情報) ※00年00月00日00時00分	○の対応		

- 避難勧告及び避難指示の一本化に伴う改善
- 気象庁・鉄道事業者との情報伝達に関する項目の追記



タイムライン(改良版)

※ 避難勧告等の発令は、水防課(水防3.5m)が作成したタイムライン(平成27年4月内閣府(防災関係))に基づき記載しています。各項目については、各市町の防災計画等に準じて変更しをお願いします。

【19】避難情報提供ツールの整備及び住民への周知

- デジタル無線同報の導入や屋外スピーカーの設置検討等を各市が実施した。
- 今後は、**避難情報を提供する設備の整備を引き続き実施**するとともに、**地域住民への周知**を図る。

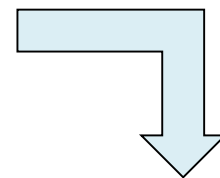
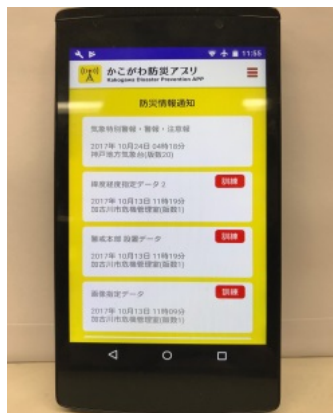
【現行取組項目】 **最大規模洪水時の避難情報提供のあり方検討**  
 【次期取組項目】 **避難情報提供ツールの整備及び住民への周知**

●屋外拡声器



第4回減災対策協議会資料より抜粋(加古川市)

●スマートフォンアプリの運用



地域住民への周知



【23】「自主防災組織で避難誘導にあたる人材」「自主避難できる住民」の育成(防災リーダー等)

- 各市では、自主防災組織で避難誘導にあたる人材の育成として、**自主防災組織のリーダー等を対象に研修会を実施**している。
- 今後は、マイ・タイムラインの作成等に関する学習会等を開催し、**自主避難できる住民の育成も促進**する。

【現行取組項目】 「自主防災組織で避難誘導にあたる人材」の育成

【次期取組項目】 「自主防災組織で避難誘導にあたる人材」・「**自主避難できる住民**」の育成  
 (防災リーダー等)

(例)防災士を対象としたマイ・タイムライン作成に係るワークショップ  
 加古川市(2020年度)

家の避難計画 マイ・タイムライン		記載例
<p><b>平常時</b></p> <p>大規模な地震発生</p> <p>緊急避難</p> <p>避難開始時期</p> <p>災害発生</p>	<p><b>避難の準備・確認</b></p> <p>①避難場所の確認</p> <p>②避難経路の確認</p> <p>③避難用品の確認</p> <p>④避難要員の確認</p> <p>⑤避難訓練の実施</p>	<p><b>避難のポイント</b></p> <p>①避難場所の確認</p> <p>②避難経路の確認</p> <p>③避難用品の確認</p> <p>④避難要員の確認</p> <p>⑤避難訓練の実施</p>



➡ 自主防災組織で避難誘導にあたる人材  
 ・自主避難できる住民へ

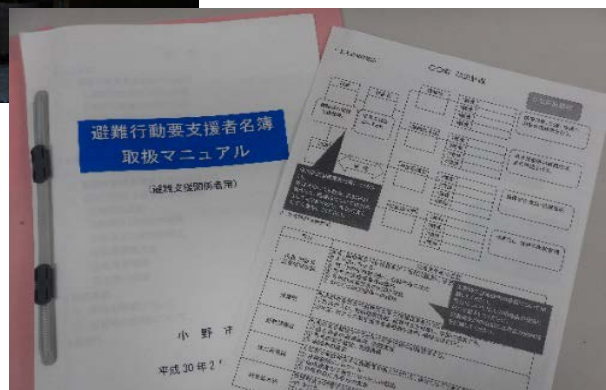
【24】避難行動要支援者に対する、避難方法等の個別計画の作成

- 避難行動要支援者の名簿作成及び更新を進める。
- 地域の特性や実情を踏まえつつ、名簿情報に基づき、各市やコーディネーター(民生委員等)が中心となって、**避難行動要支援者の具体的な避難方法等について個別計画を引き続き策定**する。

【現行取組項目】 避難行動要支援者に対する、避難計画の作成

【次期取組項目】 避難行動要支援者に対する、避難**方法等**の**個別**計画の作成

(例)訪問による名簿提供の意思確認  
 小野市(2018年度)



## 【25】避難行動要支援者に係る地域の共助力の向上

- 地域の特性や実情を踏まえつつ、**防災や福祉等の各分野間の関係者や機関同士が連携**して、地域の共助力向上に向けた取り組み（避難行動要支援者が主体的に行動できるようにするための研修や防災関係者に対する研修、防災訓練における避難支援体制の点検等）を実施する。

【現行取組項目】 高齢者・障害者等に対応可能な避難支援の検討

【次期取組項目】 **避難行動要支援者に係る地域の共助力の向上**

(例)福祉専門職に対する防災対応向上力研修



イメージ写真

(例)防災訓練における避難支援体制の点検



イメージ写真

## 【27】水害を想定した避難訓練、避難所運営訓練の実施

- 各市が主催する防災訓練は毎年継続実施している。
- 水害を想定した**避難訓練や避難所運営訓練を継続して実施**することで、住民への避難の啓発を図る。

【現行取組項目】市が主催する防災訓練の検討、実施

【次期取組項目】**水害を想定した避難訓練、避難所運営訓練の実施**

## ●水害を想定した避難訓練や避難所運営訓練を実施



ダンボールベッドの組み立て



簡易水のうの作成



物資の運搬



# 文言を更新する項目について

## 項目6

- 【現行取組項目】 最大規模洪水を対象とした洪水浸水想定区域図、氾濫シミュレーションの**策定・公表**  
【次期取組項目】 **想定**最大規模洪水を対象とした洪水浸水想定区域図、氾濫シミュレーションの**周知**

- 想定最大規模洪水を対象とした洪水浸水想定区域図は公表済みで、浸水ナビにも登録済みである。
- 今後は、**ホームページ等による公表を継続**するとともに、公共施設等へ掲示し住民への周知を図る。また、協議会にて**想定される浸水リスクを定期的に共有**する。

## 項目9

- 【現行取組項目】 最大規模洪水を対象とした浸水CGの作成・**公表**  
【次期取組項目】 **想定**最大規模洪水を対象とした浸水CGの作成・**活用**

- 想定最大規模洪水を対象とした浸水CGは作成済みである。
- 今後は、**水災害教育や避難訓練等で活用**し、想定最大規模洪水が発生した場合に具体的な場所が浸水するイメージを住民に共有する。また、必要に応じて浸水CGの作成対象地を拡大する。

## 項目10

- 【現行取組項目】 最大規模洪水を加味した洪水ハザードマップの**検討・作成**  
【次期取組項目】 **想定**最大規模洪水を加味した洪水ハザードマップの**更新・周知**

- 想定最大規模洪水を加味した洪水ハザードマップは、**避難所の更新や、中小河川の浸水想定区域等の追加等**、適宜更新を行う。また、防災教育等で住民への周知を強化する。

# 文言を更新する項目について

## 項目14

【現行取組項目】広域避難も含めた、避難場所及び避難経路の**検討**

【次期取組項目】広域避難も含めた、避難場所及び避難経路の**更新**

- 避難場所や避難経路の検討は実施済みである。
- 中小河川の浸水想定区域指定による**避難場所の変更等、必要に応じて更新**を行う。

## 項目15

【現行取組項目】地域防災計画の**検討**

【次期取組項目】地域防災計画の**更新**

- 地域防災計画は各市で作成済みである。
- **避難場所の変更等、必要に応じて更新**を行う。

## 項目17

【現行取組項目】協議会参加機関のホームページ等を活用した**情報提供内容の検討**

【次期取組項目】協議会参加機関のホームページ等を活用した、**浸水想定区域や避難行動に係る情報等の提供**

- 協議会参加機関のホームページや広報誌等で、浸水想定区域や避難行動に係る情報（例：マイ・タイムラインの作成に関する情報）等を**引き続き住民に提供**する。

# 文言を更新する項目について

## 項目18

【現行取組項目】 発表対象区域や避難の切迫性等が住民に伝わる洪水予報文、伝達手法の検討

【次期取組項目】 発表対象区域や避難の切迫性等が住民に伝わる洪水予報文、伝達手法の検討・周知

- 発表対象区域や避難の切迫性等が住民に伝わる洪水予報文や伝達手法は、これまでも検討を進めてきた。
- 引き続き、更なる検討を進めるとともに、**住民への周知を強化**する。

## 項目21

【現行取組項目】 スマートフォン等を活用したプッシュ型情報の発信・普及**活動の検討**

【次期取組項目】 スマートフォン等を活用したプッシュ型情報の発信・普及

- スマートフォン等を活用したプッシュ型情報の発信・普及活動の検討については、着手済みである。
- **引き続き、プッシュ型情報の発信・普及**を行う。

## 項目28

【現行取組項目】 **最大外力**又は計画規模洪水を対象としたマイ防災マップ等の更新、作成

【次期取組項目】 **想定最大規模洪水**又は計画規模洪水を対象としたマイ防災マップ等の更新、作成

- 取組の内容は変更せず、「**想定最大規模洪水**」という表記に統一する。

# 文言を更新する項目について

## 項目33

【現行取組項目】溜め池の決壊や内水氾濫、**最大外力等**を踏まえた避難体制の整備に**努める**

【次期取組項目】溜め池の決壊や内水氾濫、**想定最大規模洪水**等を踏まえた避難体制の整備

- 溜め池の適正な管理及び保全が行われる体制を整備することを目的として、「農業用ため池の管理及び保全に課する法律（平成31年4月）」が制定されたことを受け、「努める」という表記を削除する。

## 項目34

【現行取組項目】洪水時の**CCTV**による堤防監視、施設監視の強化

【次期取組項目】洪水時の**カメラ・水位計**による堤防監視、施設監視の強化

- 簡易型監視カメラ、危機管理型水位計による監視の強化を継続する。

## 項目38

【現行取組項目】氾濫水を迅速かつ的確に排水するための排水計画（**案**）の**策定**、見直し

【次期取組項目】氾濫水を迅速かつ的確に排水するための排水計画の**見直し**

- 排水計画は作成済みである。
- 今後、出水時の排水状況を踏まえて、必要に応じて見直しを実施する。

## 項目39

【現行取組項目】排水計画（**案**）に基づく排水訓練、及び関係機関との合同訓練の実施

【次期取組項目】排水計画に基づく排水訓練、及び関係機関との合同訓練の実施

- 排水計画は作成済みであるため、案を削除
- 引き続き、関係機関との合同訓練等を実施する。